

# 令和6年能登半島地震における1.5次避難所のソーシャルワーク記録に関する考察

○林 真紀 やわたメディカルセンター／（一社）石川県医療ソーシャルワーカー協会  
 原田とも子 （公社）日本医療ソーシャルワーカー協会  
 河原久美子 （一社）石川県医療ソーシャルワーカー協会  
 ＊研究協力者 西念奈津江 伊藤隆博

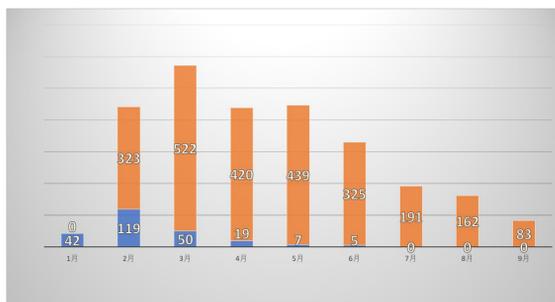
日本災害医学会COI開示  
 筆頭発表者名 林 真紀  
 演題発表に関連し、開示すべきCOI  
 関係にある企業などはありません

## はじめに

- ◆1.5次避難所いしかわ総合スポーツセンター
- ・2次避難所や施設等に移るまでの一時的な受け入れ先として石川県が開設
- ・1月8日～9月30日まで設置
- ◆医療ソーシャルワーカー（MSW）による支援
- ・1月22日～9月28日まで活動（図1）

	派遣人数	延べ人数
日本MSW協会 (1/22～7/26)	82	572
石川県MSW協会 (1/22～9/28)	53	366
合計	135	938

- ・243名（延べ2507名）への支援を実施



## 目的と方法

### ◆目的

- 災害支援の特徴

## 支援者が短期間で交替

派遣期間中の記録の改良の過程から、  
**災害時に求められるソーシャルワーク記録**  
 （以下SW記録）を明らかにする

### ◆方法

- ・1.5次避難所いしかわ総合スポーツセンターにおけるSW記録および資料から、SW記録について検討した。
- ・石川県MSW協会3名、日本MSW協会の2名計5名で、後方的に振り返り、災害時に求められる記録について考察する。

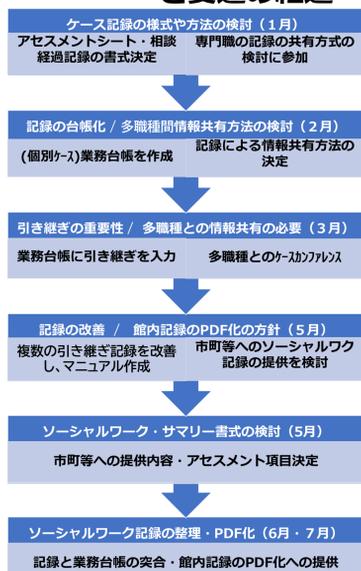
## 結果

- ・記録の改良の経過は、ソーシャルワーク・アセスメントと多職種・多機関との情報共有を目的にしていた。（図2・図3）
- ・1.5次避難所の特性から、東日本大震災において復旧・復興期に活用したMSW協会の災害時記録書式を使わず、他職種の記録を参考に、3種類の書式で活動を開始した。
- ・情報収集不足や記載内容の差、加筆や修正が増え、引継ぎ記録が過多になる傾向があった。

### （図3）ソーシャルワーク記録様式一覧

記録様式	記入方法	石川県への提供方法
①アセスメント表（図5）	紙面に手書き	PDF化し提供
1月 ②相談経過記録	紙面に手書き	PDF化し提供
③業務台帳	Excel入力クラウドで管理	Excelで提供
5月 ④ソーシャル・ワークサマリー（図6）	Excel入力、印刷し市町等に提供	PDF化し提供
7月 ⑤基本情報追加用紙	紙面に手書き	PDF化し提供

### （図2）SW記録の検討と変遷の経過



- ・ソーシャルワーク・サマリー様式（図5）を作成し、5月末より運用した。
- ・ソーシャルワーク・サマリー様式は、項目を加え、記載方法を工夫したアセスメント表（図4）に、次の8項目を加えた。

「退所先」「罹災証明」「経済的状況」「障害情報」「ADL・社会的交流」「ハイリスク要因」「申し送り事項」

- ・記録漏れ防止のため、「被災状況」「罹災証明」等、災害時特有の項目をチェック式で設けた。

### （図4）アセスメント表

### （図5）ソーシャルワーク・サマリー様式

## 考察と結論

1. 災害により深刻となった生活課題を短期間で把握し、且つ、的確なアセスメントと情報共有を行うことが求められる。サマリー様式（図5）項目「被災状況」「罹災証明」は、多職種・多機関で共通の項目として、初期段階で情報収集する仕組みが必要である。
2. サマリー様式（図5）の項目は災害時におけるソーシャル・ハイリスク項目として、初回面接時のアセスメントに使用可能である。詳細な「家族情報」や「障害情報」、関連する生活歴を把握することによって、潜在的に支援を要する人を発見し、より早期にMSWが関わることが可能である。
3. 対象者は「環境が変化し、もともとあった周囲の支援を得にくい、物事を解決する力が発揮しにくい」状況と考えられた。項目「ハイリスク要因」は、MSW協会のハイリスク項目を援用したが、対象者を発見・特定できるスクリーニング項目の開発に至らず、今後の課題である。
4. 避難所におけるソーシャルワークの質の平準化には、アセスメントシートの開発を含むSW記録の整備とともに、平時の研修や活動前のオリエンテーションが必要である。

